4　診療科の状況

(1)医師名簿

（平成23年度）

課・係名	職名	氏名	備考
院長	院長	古川重治	
副院長	副院長	三枝伸二	
内科	内科部長	加藤吉保	
	人工透析科部長	大橋保	
	総合診療科部長	田中裕之	
	医長	橋口正隆	
消化器科	消化器科部長	隈元亮	
	医務技師	前田英仁	
循環器科	循環器科部長	佐多直幸	
	医長	大井正臣	
外科	消化器外科部長	宮薗太志	
	外科部長	青木大	
	消化器外科部長	坂元史典	
	医長	惠浩一	
	医長	長野貴彦	
放射線科	放射線科部長	原田治	

4 (2) 内　　科

内科は血液専門医の　加藤吉保　内科部長，透析専門医の　大橋　保　人工透析科部長，総合診療科の　田中裕之　部長の３名で構成されています。

加藤医師は，再生不良性貧血，赤芽球癆，骨髄異形成症候群，急性骨髄性白血病，慢性骨髄性白血病，急性リンパ性白血病，慢性リンパ性白血病，ホジキン病や非ホジキンリンパ腫のうちのＢ細胞リンパ腫，成人Ｔ細胞白血病・リンパ腫などの悪性リンパ腫，多発性骨髄腫，マクログロブリン血症，特発性血小板減少性紫斑病など血液疾患を中心に診療しています。血液疾患の診断に欠かせない骨髄穿刺は平成２０年度計６９回、平成２１年度６５回、平成２２年度５４回、平成２３年度５７回施行しました。

２３年度主な症例	総件数	新患数	
再生不良性貧血	５件	１件	
赤芽球癆	３件	０件	
骨髄異形成症候群	２７件	３件	
急性骨髄性白血病	８件	０件	ＭＤＳから移行　４例
慢性骨髄性白血病	７件	１件	
急性リンパ性白血病	０件	０件	
慢性リンパ性白血病	５件	０件	
悪性リンパ腫			
Ｂ細胞びまん性	１５件	０件	
Ｂ細胞濾胞性	７件	２件	
成人Ｔ細胞白血病・リンパ腫	５件	１件	
ホジキンリンパ腫	３件	０件	
他の血液疾患			
多発性骨髄腫	１９件	３件	
マクログロブリン血症	３件	０件	
特発性血小板減少性紫斑病	２４件	０件	

大橋医師は，人工透析科部長として，”血尿・たんぱく尿から腎不全まで”　腎臓内科一般の診断・治療を行っています。腎炎，ネフローゼ症候群，糖尿病性腎症などの全身疾患に伴う腎疾患の診断・治療，急性腎不全，慢性腎不全症例の保存療法から透析導入，循環器，消化器，外科などの種々の合併症のある透析患者の治療，各種血液浄化療法の実施：血液透析療法，血液濾過透析，腹膜透析療法，ＥＣＵＭ，血漿交換療法，エンドトキシン吸着などを施行しています。

２３年度実績

慢性維持透析導入患者数	２１人
内シャント設置術	２１件
内シャントＰＴＡ	１件

田中医師は呼吸器領域を中心に内科一般を診療しています。また緩和ケア部門も担当しています。その他，地域医療支援機構の代診医派遣業務を行っており，南さつま市笠沙の野間池診療所等に１１日間の代診派遣を行いました。

呼吸器関連の検査では，気管支鏡検査１１件行いました。

呼吸器関連の入院患者疾患分類は以下の通りです。

原発性肺癌	８６件
閉塞性肺疾患（COPD，気管支喘息等）	６件
びまん性肺疾患（間質性肺炎等）	２０件
呼吸器感染症（肺炎等）	８３件（内，肺結核１３件）
気胸	２件

また，緩和ケア部門の担当として癌の末期の患者様の受け入れも行いました。

癌末期の緩和ケア（消化器癌，卵巣癌，前立腺癌等）１０件

4　(3)　消化器内科

平成 23 年度の消化器内科は常勤 2 人体制が維持されたが、今給黎・谷口から隈元・前田と新たな体制となった。昨年同様、大学からの内視鏡検査の応援はなかったが，肝臓専門外来(呉先生)は引き続き来ていただき、肝疾患患者数も増加して時には夜まで診療頂いていた。

診療内容は前年を踏襲する形で行い、外来患者数・入院患者数共に増加していった。診療実績も伸びてはいるが，さらなる増加を見込むには開業医の先生方からの紹介によるところが大きいと思われた。過疎化・高齢化の進む薩南地域ではいかにビジネスモデルを構築するかが今後の課題と考えられた。

内視鏡関連では診断から治療内視鏡への時代変遷の変革期であり，ニーズに耐えうる医師の質的・量的の向上，インフラ整備，スタッフ教育の必要性を感じた。

主な検査実績は（2011 年 4 月～2012 年 3 月）以下のとおりであった。

- ◆ 上部内視鏡検査　1,468 件
- ◆ 下部内視鏡検査　697 件
- ◆ ポリペクトミー(胃・大腸)　174 件
- ◆ EUS　33 件
- ◆ ERCP　80 件
- ◆ MDL　57 件
- ◆ カプセル内視鏡　11 件
- ◆ ESD　11 件

4 (4) 循環器科

平成23年度は前年度に引き続き，佐多直幸部長，大井正臣医長が診療にあたるとともに，４月から内科の橋口正隆医長が循環器科診療に加わり，計３名で循環器科を担当しています。

外来患者数は，増加傾向にあります。心エコー検査も増加傾向であり，午前中は医師一人が専属になっている状態でしたので，医師の増加により外来診療がスムーズに流れるようになりました。

循環器科では主に心筋梗塞，心不全，不整脈，弁膜症疾患を中心に検査・治療を行っています。平成23年度は人員が増加したことで上記検査及び治療・急性期患者への対応を充実していくことができました。

文責　循環器科医長　大井　正臣

循環器科実績

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
心筋梗塞	15	17	20	17	6	10
心不全		76	75	90	94	79
心エコー(経胸壁)	1,815	1,924	2,080	2,311	2,282	2,253
経食道心エコー		2	12	18	10	11
心筋シンチ	276	240	273	265	246	233
人工ペースメーカー	37	28	36	37	34	47
(新規)	20	22	21	20	22	28
(交換)	17	6	15	17	12	19
心臓カテーテル	68	49	86	75	78	64
冠動脈CT		6	1	1	−	−
Holter 心電図	251	239	273	353	250	240
PCI				2	−	−

4 (5) 外　　科

1. 外科の特徴

平成 23 年の外科は三枝医師（副院長）を筆頭に前半(～6 月)は青木医師（外科部長），坂元医師（消化器外科部長），長野医師（医長）で，後半(7 月～)は宮薗（消化器外科部長），青木医師（外科部長），恵医師（医長）のメンバーで診療を行いました。

消化器外科を中心に乳腺手術・肺手術・甲状腺手術も手掛けています。近年は，抗がん剤治療も著しく進歩してきています。当科では，抗がん剤治療に関して中央施設に遅れることなく，最新の知見・プロトコールを南薩地域の癌患者に提供すべく，鹿児島大学消化器外科（旧第一外科）主催の臨床研究のみならず，大学病院も含めた九州の主たる癌治療施設が参加している KSCC(Kyushu Study group of Clinical Cancer) による化学療法臨床治験にも積極的にエントリーしています。これにより，消化器外科領域においてはほぼ全国レベルの抗がん剤治療の提供が可能と思われます。

今後も地域の病院・医院・介護サービスステーションとの地域医療連携をさらに強化し，医療サービスの維持に努力します。

（文責　消化器外科部長　宮薗太志）

2. 外科の実績（平成 23 年度）

◆手術件数：全身麻酔･･･201 件，腰麻＋局所麻酔･･･39 件

◆全麻＋腰麻症例

疾患名	件数（鏡視下手術）	疾患名	件数（鏡視下手術）
◇ 胃疾患		◇ 胆道系疾患	
胃癌	17 （6）	・胆管癌	2
・穿孔	1	・胆嚢結石	23 （22）
◇ 十二指腸・小腸疾患		・胆嚢炎	4 （3）
・穿孔	6	・胆嚢腺筋症	1 （1）
・GIST	2 （1）	・胆嚢ポリープ	4 （4）
・絞扼性イレウス	12 （2）	・総胆管結石	1 （1）
・絞扼性イレウス	3	◇ 乳腺疾患	
・腸間膜動脈血栓症	1	・乳癌	3
◇ 大腸・直腸疾患		◇ 肺疾患	
・結腸癌・直腸癌	28 (10)	・肺癌	6 （1）
・穿孔	5	◇ 急性虫垂炎	20 （17）
・直腸カルチノイド	1	◇ ヘルニア	
◇ 肝疾患		・鼠径ヘルニア	25
・原発性肝癌	5	・大腿ヘルニア	5
◇ 膵疾患		・閉鎖孔ヘルニア	2
・IPMN	1	◇ 内痔核	2
		◇ その他	22

4 （6） 放射線科

1. 放射線科の特徴

平成23年度の放射線科は人事異動もなく，常勤は原田の1人体制。ほかに非常勤で毎週1回，鹿児島大学放射線科医局より，中村文彦先生が放射線治療専門医として，引き続き応援に来て下さいました。

中村先生は，放射線治療に関わる診察やセットアップのみならず，院内外からの放射線治療についての相談にも応じて下さいました。

業務は，CT・RIの報告，血管造影・気管支鏡等の検査，および放射線治療と，これまでと同様でこれらに係る外来・入院診療を行いました。

文責　放射線科部長　原田　治

2. 放射線科の実績（平成23年度）

◆ CT	2,650件
◆ RI	123件
◆ 血管造影	18件
◆ 放射線治療	29件

23年度　医局スタッフ